

〔萬葉集十秋雜歌〕詠花

春日野之芽子落者朝東風爾副而此間爾落來根

〔萬葉集十七〕入京漸近悲情難撥述懷一首并一絶

伊美豆河波吉欲伎可布知爾伊泥多知底和我多知彌禮婆安由能加是伊多久之布氣婆美奈刀爾波之良奈美多可彌略中

右大伴宿禰家持賜掾大伴宿禰池主四月

東風安由乃可是也伊多久布久良之奈吳乃安麻能都利須流乎夫禰許藝可久流見由首略

右四首天平二十年春正月二十九日大伴宿禰家持

〔萬葉集十八〕行英遠浦之日作歌一首

安乎能字良爾餘須流之良奈美伊夜末之爾多知之伎與世久安由乎伊多美可聞

右一首大伴宿禰家持作之

〔大鏡左大臣時平〕すがはらのおとゝ右大臣の位にておはします略中昌泰四年正月廿九日太宰

權帥になしたてまつりてながされ給ふ略中この御子どもをおなじかたにつかはさゞりけりかたゝいとかなしくおぼして御まへの梅を御らんじて

こちふかばにほひおこせよむめのはなあるじなしとて春なわすれそ

〔後拾遺和歌集九羈旅〕つくしよりのぼりけるみちにさやかた山といふ所をすぐとてよみ侍ける

右大辨通俊

あなしふくせとの鹽あひに舟出してはやくぞ過るさやかた山を

〔拾玉集二〕一日百首 海路

兼て去りぬあなしの風を思ふより心つくしの波路なりとは